

目的

高齢化社会の到来で、夫婦2人ですごす時間は長くなる一方、余暇重視のトレンドにより夫婦のコミュニケーションは今後その重要性を増すであろう。本研究では、夫婦コミュニケーションに影響をおよぼす要因として①「子ども」「妻の就業」等の基本的要因②夫婦のライフスタイルによって取捨選択される「余暇」「夕食」等の補完的要因を取り上げ、それらの違いによって夫婦コミュニケーションがどのように異なるのかを調べた。

方法

- ① 対象 ・当社需要家ネットワーク（T U L I P '88）より抽出した a. 世帯主の年齢が20代と30代の主婦 1,000人。（有効回答709票）
 ・対照サンプルとして、b. 年齢を特に限定しないランダムサンプル 302人。
- ② 方法 質問紙調査法 ③ 時期 1988年12月上旬

結果

会話時間は、子供が生まれると、短くなる傾向がある。子どもがいて妻が働いている場合だと、この傾向は一層強くなる。会話内容は、子どものいない人では、遊び・趣味的話題が中心だが、子どものいる人では、子どもの話題が中心となる。

「余暇」「夫婦イベント」（例、妻の誕生日 結婚記念日等）「友人づきあい」「夫婦一緒に夕食」「夫の家事」等の補完的な要因も、夫婦のコミュニケーションの充実に寄与する手段となりなりうる。